

第 23 期 日本学術会議 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会
第 6 回分科会議事録

1. 日時 2017 年 6 月 22 日 (木) 11:00~13:00

2. 場所 日本学術会議 5 階 4-A (1) 会議室

3. 出席者 (敬称略)

桑野 (阪大)、金田 (富士通)、渡辺 (JST)、玉田 (九大)、河田 (阪大)、荒川 (東大)、中野 (東大)、
為近 (横国大)、堀 (名大)、百瀬 (元横国大)、伊藤 (慶大)、
オブザーバー：豊田長康 (鈴鹿医療科学大学学長)

4. 資料

資料 1 第 5 回分科会 (2016-11-4) 議事録

資料 2 公開シンポジウム「日本の科学と産業の停滞と復興」チラシ

5. 議事概要

議題 1：前回第 5 回分科会議事録の確認

第 5 回分科会 (2016-11-4) 議事録 (資料 1) をもとに、伊藤幹事より前回の審議内容を要約説明された。

議題 2 総合工学委員会活動の報告

渡辺委員より、7 月 20 日開催された総合工学委員会での審議内容等について報告頂いた。

- ・ 来期の会員と連携会員の選考が進んでいる。1 部、2 部、3 部それぞれで選考分科会があり、そこからの提案をもとに学術会議全体の選考委員会で最終決定する。今期の方針は融合をテーマにできる分野横断型の研究者を加えて選ぶようにする。選考のポイントは「総合工学を第一分野とする人」、「これまでの委員会の出席率などをもとにしながら学術会議への優先度」、「分野横断」、「男女バランス」、「地域バランス・企業経験」。7 月 28 日の臨時総会で会員・連携会員が決定し、その通知が新メンバーに届く。
- ・ 総合工学委員会から提言「社会課題と連携する「総合工学」の強化推進」を提出した。7 月 28 日総合工学委員会で承認予定。
- ・ 来期の委員会・分科会について。これまでは期が変わる前に分科会の継続希望を聞いていた。これからは 10 月 1 日に期が変わってから継続するか否かを決める。

議題 3：公開シンポジウム「日本の科学と産業の停滞と復興」の趣旨と議論すべき内容について。

パネルディスカッションで議論すべきこと。

- ・ 学術委員会だからこそできることを議論するのがよい。
- ・ 学術会議全体にかかわるテーマである場合には、総合工学委員会に上げていくことができる。
- ・ 今回のシンポジウムでは素晴らしい講師が揃っているが、産業界の方がいらっしやらないのは意図があるか？
- ・ 特に意図はない
- ・ 旧来型の産業より、新しいスタイルの産業を育てるという観点から、牧先生や大澤先生にお話いただく。
- ・ 応用物理学は学術貢献と社会還元が一体となった学術分野。よって論文至上主義に偏重しては産業への貢献はできない。そのあたりを議論したい。

議題 4：今後のスケジュールについて

- ・ 8 月 23 日に総合工学委員会が開催される。そこで来期への申し送り事項を確認する。
- ・ 今期中 (9 月 30 日まで) にもう一回分科会を開催し、来期への申し送り事項をまとめる。

資料1

- 本日の委員会の議事録は、通常通り次回委員会で確認する。ただし万が一、次回がメール審議になった場合には、議事録案をメール回覧によりまとめた後、委員長一任で最終承認とする。

以上（伊藤記）